

## 2022年度 委員会事業報告書

担当副理事長 永坂規明  
まちの遊び創出委員会 委員長 高木伸也

### 1. 委員会開催日 (12回)

1 / 12	2 / 9	3 / 22	4 / 26	5 / 11	6 / 15
7 / 22	8 / 13	9 / 17	10 / 15	11 / 9	12 / 20

### 2. 事業報告

- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| (1) 賀詞交歓会 (1月例会) の担当        | 1月18日     |
| (2) 創立60周年記念事業 (8月例会) の担当   | 8月20日     |
| (3) 西尾張合同事業 (西尾張異業種交流会) の担当 | 3月17日     |
| (4) JCI ASPACの担当【堺高石】       | 5月26日～29日 |
| (5) 愛知ブロック 愛知ブロック大会の担当【豊川】  | 9月3日～4日   |
| (6) 日本JC 全国大会の担当【大分】        | 10月6日～9日  |
| (7) 新入会員の拡大                 | 通年        |
| (8) 新入会員の育成                 | 通年        |

### 3. 委員会メンバー

高木伸也 高鍬佑基 飯田匡崇 石川裕之 高島大輔 柳田進也 遠藤奨太 久保馨

### 4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、若者世代が流出することで地域が衰退していかないように、海部津島が一体となって新しい魅力を創出・発信することで、選ばれる地域になることを目標に活動してきました。

まずは、賀詞交歓会において、日頃から我々の活動を支えていただいている方々への感謝と敬意を表す場を設けるとともに、海部津島が一体となり一緒に活動をしていけるよう、運動発信を行い一層のご理解・ご協力を得られるようにしました。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて懇親会を中止とさせていただきます。式典のみの賀詞交歓会の場合は懇親会のような交流の場が無くなってしまっているので、改めて来場者と全メンバーが交流できる場をより多く設けることができれば内容の濃い例会になったのではないかと考えます。しかし、その中で力強い理事長所信表明、さらには特別議長、各委員会の委員長による委員会紹介によって我々が発信する運動についてご理解をいただくことができました。その後の創立60周年記念事業では既に活動内容についてご理解をいただいている方が多かったため、事業のご案内やその後のお打ち合わせをスムーズに進めることができました。

創立60周年記念事業では、若者世代の気持ちを刺激する魅力を創出、発信し選ばれる地域としての第一歩を踏み出すとともに、それらの魅力を継続的に創り出すために先駆けとなる新たな仕組みを海部津島に構築することを目的としました。この事業を通じて行政や学生、新たな協働者となる一般企業を巻き込み、無償でブース出展をしていただき来場者に振る舞うという新しいコンセプトの事業を海部津島に創り出すことができました。しかし、この事業の目的から考えると対象が明確にできず、若者世代から得る情報の収集不足や事業の構築が常に後手となってしまう、十分な準備や仕組みを構築できないまま時間が過ぎ、事業を開催する中で多くの来場者の笑顔や喜んでる姿を見ることができましたが、まちづくりに興味が無かったり、やったことが無い人がこの事業を通じてまちづくりに興味をもったり、実際にやってみようという意識

変革が起きた来場者については一部の方に対しての効果で終わり、結果的に人がたくさん集まった「イベント」という形となってしまい、海部津島に若者世代の気持ちを刺激する魅力を創り出すというところまでには至りませんでした。若者世代の気持ちを刺激する魅力を創り出すために、例えば一回の例会で完結をするのではなく、事前に事業を設けてその中で若者世代の中心である学生を巻き込み話し合いの場を設け、情報を共有しどのようなブースが若者世代に響くのかを考える時間を作ったり、ブース出展に関して疑似体験をしていただくことでより具体的に若者世代を惹きつける魅力とは何なのかを考え例会に向けて内容を構築していくことができれば、より効果の高い発信ができたのではないかと考えます。また、今回設定した「若者世代の気持ちを刺激する」「選ばれる地域としての第一歩を踏み出す」という目的について、達成をする上でかなりハードルの高いテーマであり検証も困難なため「協働者を何名」「来年はこの事業と一緒に協働したいと感じた来場者を何名」など次年度以降にもつながり且つ、市民の意識変革が把握できるような数値目標を設定した上で適切な目的を基に事業を構築するという事が重要であると考えます。新たな仕組みを構築するという点については今後、青年会議所としてではなく、他団体やJCデーで協働した人を中心に事業の継続を行っていくことを検討しております。幾度となく企画を変更してしまつて議案を通すこと、事業を創り上げることに労力を使つてしまったことを是正し、どこにもない魅力や市民の意識変革を起こす運動を発信するために、事前に若者世代へヒアリングをして徹底的に調査をした上で事業を創り上げるべきであると考えます。結果的に「若者世代の流出を防ぐ」という部分までには本事業だけでは至らなかったと考えますが、今後、本事業がきっかけで巡り合えた新たな協働者とともに創り上げた事業によって多くの来場者のまちづくり対しての参画意識を変革することができ、さらには何年も継続して事業自体をブラッシュアップするとともに、まちづくり対しての意識が変革した人々を巻き込み事業を共に実施していくことで海部津島が選ばれるまちの先駆けとなれるのではないかと考えます。

年間を通して、海部津島が一体となり新しい魅力を創出、発信するために何度も打ち合わせを重ねることで今まで以上に我々の活動対してのご理解や多大なるご協力を得ることができた点から、地域を巻き込むことはできたと考えます。しかし、若者世代のニーズは事業の発信内容からも的確に捉えることができたとは言い難く、選ばれるまちのモデルケースとなるまでには至らなかったと考えます。結果として若者世代が楽しむことができる「イベント」は地域を巻き込み発信することができましたが、若者世代の流出を食い止めるという部分までには至りませんでした。地域としてより多くの若者世代に選ばれ続けるまちとなるためには、まずは来場者、協働者の対象年齢層を明確にし、それらを踏まえた上で地域の人々をより多く巻き込み、集めた情報を取集、分析的確且つ継続的に運動発信することが必要であると考えます。

## 5. 委員長所見

委員長という立場でこの一年を振り返ってみますと、楽しさや面白さを感じることもよりも苦しさや時には逃げ出したくなるような気持ちに陥る場面が多々ありました。しかしその苦労した時間は決して無駄な時間ではなく、委員長という立場でしか味わうことができない青年会議所の醍醐味を存分に感じる事ができた一年となりました。

平野理事長より「まちの遊びの創出」というテーマをいただき、海部津島が「遊び」を通して、どのようにして若者世代を惹きつける魅力創り出していかなければならないのかを考えることが中心の一年となりました。海部津島が一体となるために賀詞交歓会では各行政、教育機関、特別会員へ案内状を可能な限り直接お届けし、8月例会では積極的に協働者との打ち合わせ、協賛依頼を行い、通い続けることで相手も我々の行動を理解し、意識が変わっていく様子を見ることができ例会だけではなく準備段階から協働者や協賛企業を巻き込み、共に事業を創り上げることの醍醐味を感じる事が出来ました。ただ年間を通して委員会メンバーやLOMメンバーにやることを割り振りできず一人で動いてしまうことが多くなつてしまつた結果、この醍醐味をメンバー皆様に味わっていただくことができませんでした。そして役割を割り振りできなかつ

た失敗は事業当日にも影響し、LOMメンバーや協働者、先輩諸氏にも大変ご迷惑をおかけする形となってしまいました。

また2022年最大の運動発信である60周年記念事業JCデー（8月例会）も多くの人々が来場し盛り上がりを見せたものの、議案や事業の構築、協賛、設営に追われてしまい中身の伴わない「イベント」という形で終えてしまいました。

今年一年は地域の方のご理解とご協力に支えられた一年でした。そしてそれ以上にメンバーや先輩諸氏、家族にも支えられ、青年会議所活動をやり遂げることができました。特に60周年記念事業では少ないメンバー数の中で数日間炎天下の下、朝早くから遅い時間帯まで設営をいただいたことに対して深く感謝を申し上げます。

担当副理事長・副委員長をはじめとする委員会メンバー、多くのLOMメンバーにご助言・ご協力をいただきました。皆様のおかげで、青年経済人として私自身大きく成長し、たくさんのことをこの一年間で学ばせていただきました。皆様への御礼と今年度の経験を活かし、今後もLOMのため、海部津島のために邁進することを約束して、私の委員長所見とさせていただきます。

## 6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	0	事業費	0		0		0
合 計	0	合 計	0	合 計	0	合 計	0